

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794200127		
法人名	株式会社美咲		
事業所名	グループホームみさき花園		
所在地	大阪府茨木市花園2丁目24番17号		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に立地しており、季節の草花が植えられている公園や四季の移ろいを感じる並木がある遊歩道に面している為、散歩等の外出する機会を多く設けていきます。
また、施設内では利用者様の「安心、安全」を第一に考え、地域の中で今までと変わらない生活をして頂けるように支援してまいります。
自治会、相談員、家族様ともに交流があり、夏祭りやボランティア等協力を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、戸建住宅が並ぶ住宅街の奥まった箇所に立地し、車の流れ等も少なく、天気の良い日にはちょっとした散歩で近隣を歩くのに適したロケーションとなっている。町内会の回覧物に事業所のPRを兼ねて名前を掲載するなど近隣と親しく交流すべく努力を続けている。白で統一された外観も近隣の静かな雰囲気とマッチし、高齢者が数人暮らしている住宅という感がでている。管理者が交代して間もないが、利用者や家族にその影響を最小限に留めるように、職員全員が協力している様子が感じられた。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが	
			4. ほとんどない			4. ほとんどない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年3月すぐに施設理念も作成。法人理念共に、「生活、尊重」は共有・実践している。	新たに職員が相談して事業所独自の理念を作成した。法人の理念と共存させて、日常から理念を意識したケアの実践に職員全員で取り組んでいる状況である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等の外出する機会を多く設け、地域住民とあいさつを交わしたり、地域の行事に積極的に参加して地域との関わりを深めていきます。	外出時には挨拶を交わしたり、地域福祉活動の行事に参加する等、近隣との交流に努めているが、更なる関係強化を期待したい。	地域の自治会活動もしっかり組織されているようであり、立地的にも好条件と思われるので、更なる交流を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	質問や相談があった時にはお応えしている。また運営推進会議の場や散歩時などに声かけられたりして話すこともあり。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や確認はもちろんのこと、踏み込んだ意見交換もできてはいるが、出して頂いたアイデアを施設運営に活かす所までは至っていない。	自治会の代表者、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の代表が参加して、事業所運営状況の報告、近隣行事の情報収集などを行なっている。	地域との交流面の前進のためにも、運営推進会議を活用する事を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員にご参加頂いており、貴重なご意見を頂いている。また連絡会参加し顔合わせし話す機会を設けている。	事業所の運営状況の報告や利用者個々の対応について行政の窓口と接触して協力関係を維持し、行政主催の連絡会には管理者が積極的に参加するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる具体的な行為」にあたる身体拘束は行っていないが、玄関ドアは防犯上閉めている。	身体拘束や虐待防止に関する研修について法人としての取組みが徹底している。利用者個々の状態により職員が相談して最善の支援方法を選択し、家族の同意を得て対応している。	現在、安全面から日中も玄関を施錠した状態になっているが、外の交通量も少ないので時間帯を決めた施錠開放に取り組んでは如何か。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じ、スタッフ間で虐待防止を周知させている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会をしたが、入居者個々に必要がまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分な時間を設け、書面の読み合わせ・説明・質疑応答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会に来られた時やお電話もしくはご意見シートにて意見を頂戴しています。また介護相談員を通して利用者様のお気持ちをすることもあります。	調査当日にも家族の訪問があった。来訪時には健康状態や暮らしの様子を詳しく報告している。〈生活の様子〉〈連絡事項〉を毎月書面にて報告している。職員の丁寧な対応は家族も評価をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングだけでなく、普段のやりとりの中で出た意見で良いものはなるべく取り入れるようにしています。	新しい管理者の元、職員間の情報交換、意見交換を密にした取組みが行われている。チームケアを徹底し、利用者および家族との連携強化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力別賃金体系が導入され、個々の能力やモチベーションが上がる事を期待している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験豊富な職員によるOJTが常に行われており、定期的に勉強会も開催されている。また、法人の定めるチェックシートがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体の管理者会議や、地域密着型サービス事業所の勉強会に参加するなどして交流をはかっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段からコミュニケーションに重きを置き、信頼関係を築きつつ情報収集を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階でご家族の意見をよく聞き、できる限り取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にしっかりと話し合い、必要に応じて他のサービス利用も視野に入れて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様にできる事はご自分でして頂き、職員はその補助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用者様の状況を定期的にお知らせしており、必要に応じてご協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の来訪は、初回は確認するが突然であっても快く受け入れている。	入所の時に、家族や本人から今までの生活状況を聞き取り、本人の知人や友人関係、暮らし方、趣味、嗜好、健康状態を確認して、入所後も今までの延長で暮らして行けるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事により、利用者様同士の関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したとしても、その後の経過を伺い、相談に乗るなどしてできる範囲で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望はできる限り取り入れるようにしています。	事業所での暮らし方については、本人の思いや意向に沿うように、日常の関りの書かで確認し、介護計画書にも反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談で情報をしっかりと得て、入居後も必要に応じて家族様にお尋ねするなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録用紙はお一人につき一日一枚となっており、見やすく、生活パターンが把握しやすくなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の話を伺い、それをもとにスタッフ間で会議を行っている。	本人の希望と家族の意向を聞き、それまでのケアマネージャーの考えを確認し、かかりつけ医から健康面の意見を聞き、計画作成の基本情報として、支援目標、支援方法を明確にして介護計画書を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の生活記録はいつでも読める状態になっており、申し送りや連絡ノートを通じて情報を逐一共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来ご家族様にして頂く事でも状況に応じて施設側で代行したり、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしの提供に努めているが、地域資源を活用するには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医が毎週往診に来ているが、希望により以前からの馴染みの医療機関を利用されている方もいる。	本人及び家族の意向を優先してかかりつけ医の選定を行っている。以前からのかかりつけ医への通院支援も協力している。事業所の提携医による定期往診(毎週)による万全の医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医往診時用の連絡ノートがあり、医師に伝えたい事があれば誰でも記入できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたとしても、週に一度は面会に行き、ご本人の状態などを把握する為に医師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、常時医療ケアが必要になった場合はホームで対応できない事を説明している。	入所の時に、重度化や終末期への事業所の対応方針を説明し同意を得ている。家族の意向も確認している。現実に重篤の状態になった時点で、再度、家族と対応の内容について話し合い、担当医の指示に従って事業所として最善の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習受講済の職員が多く在籍し、定期的に施設内でも勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実施している。また、非常時には地域や家族様相互協力する体制になっている。	通報設備、消火設備は整備されている。前回のサービス評価でミニ訓練を計画して3回実施した。地域の参加をお願いしたが家族の協力は得られている。	立地条件的に住宅地の奥に立地しているので、防災に関する近隣との協力体制の構築は関係強化の面からも望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の定めるチェックシートを活用し、今後接遇も取り入れていく。	利用者の尊厳の確保、プライバシーへの配慮、個人情報の保護については法人の研修やマニュアルにて徹底されている。トイレ誘導時の羞恥心への配慮も行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体ではなく、利用者様主体を心掛けて いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者様それぞれのペースに合わせた生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装などは利用者様にお任せしており、必要に応じて声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・食事・後片付けは全て利用者様と一緒に実施している。	食事の準備や配膳、テーブル拭き、後片付け等に利用者の参加を促して生活リハビリとして活用している。明るい食堂で歓談しながらの食事風景となっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量ともに毎日記録を付けている。また、利用者様の状態に応じておかゆやきざみ食など柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、必要に応じて声かけ・介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様それぞれの排泄パターン把握に努め、時間を見てトイレ誘導を行っている。	利用者個々の排泄の習慣やリズムを記録して事前の声掛けによる誘導により、自立したトイレでの排泄習慣を目標にした支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足の解消に散歩を、飲食物では乳製品を取り入れている。それでも困難な場合は主治医と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決めているが、その時に応じて時間や日にちをずらすなど柔軟に対応している。	予め曜日による予定を決めているが、本人の希望を優先した支援を行っている。健康状態や気分により時間や日程を変更して健康管理、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の出入りは基本的に自由なので、休憩やお昼寝なども利用者様のご自由にされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人のファイルにとじてあり、いつでも調べる事ができる。また、変更があった場合には連絡ノートを通じて全スタッフに周知させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活においては利用者様それぞれのやりたい事をできる範囲でして頂いている。また、買い物・散歩・カラオケなどのレクを個別で提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、できる範囲でお応えしている。	近隣は交通量も少なく、また近くには公園や花壇もあり散歩に適した場所なので出来るだけ外気に触れ、気分転換目的で散歩を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金をご自身で管理されるのは自由なので、買い物に行かれて好きな物を購入される方もいる。施設側で金銭の預りは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の状況や家族様のご都合によるが、必要に応じて電話を使って頂いている。また、手紙が届いた際はご本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きくて日当たりも良く、四季の移ろいが把握しやすくなっている。	玄関、リビング兼食堂、廊下のスペースに余裕があり快適である。特にリビングの開口窓が大きく外の自然の様子が目に入り利用者を落ち着かせている。洗面、トイレの場所もわかり易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外は自由席となっており、ソファーを含め好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使用して頂いている。また、ご自宅で使用されていた馴染みの家具を持ち込んで頂けるように入居時にお願いしている。	入居時に家族にお願いして、出来るだけ普段使っていた馴染みの物を持ち込んで貰っている。居室内は明るく清潔に保たれている。安心してくつろげる雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間取りが簡単で見渡しやすい。またトイレ等の表示が利用者様の目線に合わせて低く設置されているなど、分かりやすいように工夫されている。		